

平成25年度 学校評価(まとめ)

					H25年度	H24年度	前年度比較	H23年度	H22年度
分類	評価の観点	評価項目	設問	設問番号	H25平均	H24平均	H25-24	H23平均	H22平均
学校運営	私学の独自性	建学の精神について	建学の精神が教職員、生徒、保護者など、学校関係者によく浸透している。	1	2.8	3.4	-0.6	3.5	2.9
		愛校心について	在校生、卒業生は学校に誇りを持っている。	2	2.9	3.4	-0.5	3.3	3.1
	教育課程	学習指導要領の対応状況	教育課程は学習指導要領に沿っている。	3	3.3	3.7	-0.4	3.6	3.3
		教育計画について	年間を通じた教育計画を各教科別に立てている。	4	3.4	3.4	0.0	3.6	3.3
	教職員連携	教員・教科間連携状況	教員間・教科間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。	5	2.7	2.5	0.2	2.5	2.2
		教員と事務職員の連携状況	教員と事務職員の情報交換の機会があり、相互理解、連携がはとれている。	6	2.8	2.8	0.0	2.6	2.5
		会議の有効性	教職員会議をはじめ各種会議が有効且つ効率的に機能している。	7	2.5	2.2	0.3	2.1	2.0
	財務関係	財務に関する意識	学校の経営指標と財務状況について理解している。	8	2.3	2.4	-0.1	2.5	2.0
		財務状況の把握について	予算、決算の収支の状況について理解している。	9	2.4	2.2	0.2	2.4	2.0
		評議員・理事会機能について	評議員会・理事会の役割や機能について理解している。	10	2.2	2.1	0.1	2.2	1.9
	情報公開	ホームページの活用状況	学校ホームページで可能な範囲の情報公開をしている。	11	3.2	3.2	0.0	3.3	2.8
		授業公開状況	保護者などへ授業を公開している。	12	3.1	3.3	-0.2	3.4	3.1
	危機管理	役割分担について	事故、事件、災害時に対処する役割分担が明確にされている。	13	2.8	2.7	0.1	2.8	2.4
		危機管理対応状況	危機管理マニュアル、警察、消防との連携、訓練など学校の安全対策は十分取られている。	14	2.9	2.8	0.1	2.9	2.5
	開かれた学校づくり	地域交流について	地域や地域住民との交流が来ている。	15	2.8	2.5	0.3	2.7	2.3
教育内容	情報教育	情報能力育成	生徒の情報活用能力の育成を図っている。	16	3.0	2.8	0.2	2.8	2.5
		情報モラル指導	情報の発信に伴う責任など情報のモラル面での教育に十分取り組んでいる。	17	2.7	2.8	-0.1	2.8	2.6
	人権教育	研究体制	人権尊重に関する様々な課題や指導方法を教員が研究する体制がある。	18	2.5	2.8	-0.3	2.7	2.4
		教育体制	人権尊重の教育において、様々な学習方法で、意識を高める教育を行っている。	19	2.7	3.0	-0.3	2.9	2.5
	環境教育	環境問題意識向上	ゴミ、リサイクル、省エネなど身近な問題から環境への関心を高める教育を行っている。	20	2.4	2.9	-0.5	3.0	2.7
		実践的態度の育成	生徒に清掃、校内美化に取り組ませている。また、施設・設備を大切にする心を育成している。	21	2.7	3.2	-0.5	3.4	3.3
	健康・食育	健康・食に関する指導について	健康教育、食育などにも配慮している。	22	2.7	2.8	-0.1	2.8	2.8
	生徒会活動	生徒会活動支援状況	生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるよう学校全体で支援している。	23	2.9	2.9	0.0	2.5	2.5
	その他	読書推進	図書館の利用促進など読書指導に取り組んでいる。	24	3.5	2.9	0.6	3.0	3.0
		部活動	部活動は活発だ。	25	3.0	2.7	0.3	2.7	2.4
		ボランティア	ボランティア活動は活発だ。	26	2.2	2.4	-0.2	2.5	2.3
		学校行事	体育祭、文化祭などの学校行事は活発だ。	27	3.2	3.0	0.2	3.0	2.8
		スポーツ・芸術文化	スポーツ活動、芸術文化活動を計画的に教育活動に取り入れている。	28	3.1	2.9	0.2	2.9	2.9
		国際理解	他国の歴史・文化の理解、異文化交流など国際理解に対する教育活動を取り入れている。	29	2.9	2.7	0.2	2.7	2.6
生徒指導支援	生徒指導	指導方針の一貫性	生徒指導は学校の方針に従っている。	30	3.1	3.4	-0.3	3.4	3.2
		生活指導について	生徒の生活指導に組織的に対応する体制がある。	31	3.0	3.1	-0.1	3.2	2.8
		家庭との連携状況	生徒指導において、家庭との連携ができています。	32	3.1	3.3	-0.2	3.3	3.0
	生徒支援	学習指導について	学習指導において、生徒の実態に合わせた指導方法の工夫・改善を行っている。	33	3.0	3.1	-0.1	3.2	2.9
		カウンセリング体制	カウンセリングマインドを取り入れた支援体制がある。カウンセラーの活用ができています。	34	3.5	3.3	0.2	3.5	2.9
		進路指導について	生徒一人ひとりの興味・関心・適性に応じた進路選択ができるような支援体制がある。	35	2.8	3.2	-0.4	3.2	2.9
		キャリア教育	様々な職業・資格を理解し、将来的に社会を担える人材を育成する。	36	2.8	3.0	-0.2		
教員研修 資質向上	教員研修	教員の資質向上について	教員間で授業内容を評価、意見交換などを行う機会がある。	37	3.1	2.4	0.7	2.6	2.3
		校内研修	効果的な校内研修計画を立案し、教職員に実施している。	38	2.7	2.6	0.1	2.7	2.2
		初任者のサポート状況	初任者等、経験の少ない教員を学校全体でサポートする体制がある。	39	2.6	2.5	0.1	2.4	1.9
		校外研修	教員が計画的に校外研修を受ける体制が整っている。	40	2.5	2.5	0.0	2.3	2.0
		研究成果の共有状況	研修、研究に参加した成果を、他の教員に伝えて情報を共有する体制がある。	41	2.5	2.4	0.1	2.2	1.9
平均					2.8	2.9	0.0	2.9	2.6

【教員による自己評価の報告】

◎目標： 教員一人ひとりが東大谷高校の教員である自覚と誇りと責任において、学校をより良くしていくために、客観的な視点から自己評価を行うと共に、示された全体の結果を、それを一人ひとりの教員が認識し、更なる改善を共通認識のもとに推し進めるために実施する。

◎評価： アンケートの総括的分析として、今年度は泉ヶ丘校舎移転、男女共学化と、これまでの東大谷高校とは違った新しい歴史創造へのチャレンジの年であったこと。阿倍野校舎には2・3年生の女子が10クラスと落ち着いた雰囲気の中で、これまでの伝統ある女子教育が展開されたが、泉ヶ丘校舎では初めての男子学生の入学だけでなく、上級生のいない750名を超える1年生20クラスという大所帯の指導に戸惑った1年であった。
この2つの校舎が併存することによる教員間の意思疎通に少し課題があったことが、アンケート項目の「生徒指導の一貫性」、「進路指導について」などの数値が下がっていることが示していると考えられる。来年度も2つの校舎依存が続くので課題としたい。
個々の課題については「教育課程」・「情報公開」・「読書の推進」・「カウンセリング体制」・「学校行事」などで高い数値を示している。これは教員集団が共通認識を持って日々の教育活動に取り組んでいる分野であると考えられる。さらに「教員の資質向上」・「地域交流」についても前年度との比較において高い伸び率を示しており、泉ヶ丘校舎(男女共学化初年度)の教育活動としては評価できるものとする。最後に部活動の数値が上がったのは男子の入学により、クラブ活動が活性化されたものであろう。
ただし、前年度と比較して大きく数値を下げた項目がある。それは「私学の独自性」の項目で、女子校時代にあった、愛校心とか東大谷生としての自覚(プライド)といった分野での評価が低くなったことは非常に憂慮すべきことであり、新しい共学という環境で、新たな自校を愛し、誇りをもてる教育を展開しなければいけない課題が出てきたと考える。

◎改善策： 財務に関する認識度は例年通り低い数値のまま推移しており、私学の教員としては、学園の財務状況は是非認識しておかなければいけない項目です。学校全体として財務状況に対する啓発活動を展開していかなければならないと考える。